

第13回 かながわ感動介護大賞



助六すし

社会福祉法人なでしこ会
横浜市常盤台地域ケアプラザ

堀 ユミ様

軽快な音楽と共に1台の軽自動車が坂の上の自治会館にやってきました。私たちの事業である移動販売初日です。

買い物を待っていた方達が交わす挨拶や話声が聞こえ、ひとつのコミュニティーになろうとしています。口々に便利さを話しながら野菜・総菜・米などが売れていきます。終了時間になり片づけ始めたころ、一組の親子が「まだ、大丈夫ですか?」と声を掛けてきました。重ねた箱を並べ直しているとお母さんが興味深げに体を乗り出しました。その目線の先には助六すしが数種類ありました。娘さんが「買っていいですか」と言うと暫く悩み、たまごの入った助六すしを手に取りニコニコしていました。

お母さんは今日の買い物を何日も前から楽しみにし、デイサービスをお休みして来ました。いつもは娘さんが手伝わないと着替えも終わらず外出準備も大変だが、娘さんが仕事から帰るとお気に入りの服を着て待っていました。髪も小さなお団子にしてシュシュもつけていた姿を見て、終わっているかもしれないが来た事を優しい笑顔でお母さんを見つめながら話していました。

便利さだけを考えていましたが、小さな移動販売がたくさんの笑顔を生むことに気付かれました。

西陽に向かって買い物袋を手に帰る親子の後姿を温かい思いで見つめていました。そしてきっと今夜は、買い物の事を話しながら助六すしを優しい笑顔で食べている姿を想像し、私達も熱い思いになりました。

